

わかば会誌

第15号

2021.1

巻頭言

会長就任にあたって ~令和2年をふりかえって~

河北郡市医師会 沖野 惣一

新年明けましておめでとうございます。

令和2年6月6日の河北郡市医師会定時総会において、会長に選任されました沖野です。既に半年余り経過していますが、あらためてご挨拶とともに自己紹介、昨今の状況に関連して思うところを述べさせていただきます。

私は昭和62年に金沢大学を卒業し、同大学神経内科(高守正治教授)に入局しました。大学・関連病院で勤務後、平成19年に地元かほく市で開業しました。北谷元会長のもとで医師会理事、その後、由雄前会長のもとで副会長を勤めさせていただきました。約100年もの伝統がある当医師会の会長職を任されたことは、大変な名誉であるとともに緊張感を覚えます。久保隆之副会長をはじめ理事の皆様、歴代の会長、事務局の最上さんの支えも得て勤めて参ります。

自分が開業してまだ13年あまりですが、様々なことがありました。何と言っても大きな出来事は、東日本大震災と中国武漢に発した新型コロナウイルス感染症 covid-19です。東日本大震災においては、当医師会からは由雄前会長が南相馬市に出向き避難所で様々な医療活動をされ、現場の状況を多くの写真とともに我々会員に教えていただきました。衝撃を受けました。そして今回の covid-19です。

言うまでもありませんが、世界中で膨大な数の感染者・死亡者が発生し、経済被害も甚大で失業者も自殺者も増え、社会のありようが変革する事態に至っています。河北郡市内でも4月以降多くの感染者があり、病院でクラスターが発生しました。人間、つらいことを忘却することで気持ちを保つようにできているようで遠い過去のように錯覚しますが、わずか半年余り前のことです。当時は極めて逼迫した状況でした。由雄前会長とともに県対策本部と毎日のように交渉した日々が思い出されます。しかし covid-19は現在進行形であり、医療現場のリスクも社会的混乱も継続しています。地域医療に関わる医師会としては、行政や多職種と連携しながら最善の対策を

模索し続けていかなければならないと思います。

我々の日常も、会議や研修会のリモート化、飲食を伴う会合や親睦会の中止(医師会の親睦会「わかば会」も中止となり残念でした)により、従来の face to face の情報交換や懇親会ができず寂しい限りです。しかし、利用できるツールを活用し、こういう時期だからこそ会員一同で共通した認識をもって対応したいと考えます。

ちょうど4年前、米国でトランプ大統領が選出されたときに「反グローバリズムと今後の医療」という題で当誌に寄稿しました。当時は彼がどのような政治を行うか不安でしたが、twitterで傍若無人につぶやく一方で意外と約束は履行しました。少なくとも日本にとっては悪くなかったと思います。そのトランプ氏もグローバル企業やマスコミ、いわゆるエスタブリッシュメントの反撃にあったことや covid-19 の対応に誤りがあったためか、選挙結果は11月時点では再選とはなっておらず、バイデン氏が次期大統領になる確率が高いようです。今後の米国の行く先も混沌とした印象です。

ストレスと緊張の日々が本年も続きそうですが、晴れた日の冬の夜空は満天の星が輝いていて心を落ち着かせてくれます。一杯きこしめしながらオリオン座を眺め、宇宙とギリシャ神話に思いをはせて、明日につないでいきましょう。



左から 事務局 最上さん、沖野新会長、久保新副会長

消化器内視鏡科 診療科長就任のご挨拶

金沢医科大学 消化器内視鏡科 臨床教授 北方 秀一



新年明けましておめでとうございます。

2020年4月より、伊藤透教授の後任として消化器内視鏡科科長を拝命しました北方秀一と申します。河北郡市医師会の皆様には、日頃から地域連携を通し大変お世話になっております。また、胃がん検診事業において深く関わらせていただいております。金沢医科大学赴任後より胃透視による検診の読影会に参加させていただき、2015年に山崎軍治先生が津幡町の胃内視鏡検診を立ち上げた際には、伊藤教授とともに試行錯誤でお手伝いをさせていただきました。現在は読影のレフリーを務めています。2019年より内灘町でも胃内視鏡検診がスタートし、運営、精度管理に携わっています。

私は、1998年（平成10年）に金沢大学医学部を卒業後、金沢大学がん研究所外科に入局、故磨伊正義教授のもとで、外科学、腫瘍学、内視鏡診断学の指導を受け、消化器癌の診療に携わってきました。その間に大腸癌肝転移過程におけるサイトカインの役割をテーマに研究を行い、学位を取得しました。伊藤教授はがん研外科同門の先輩にあたり、伊藤教授が消化器内視鏡科を立ち上げる際にお誘いいただき、2009年10月より赴任しました。赴任後は、内視鏡による低侵襲治療の開発に取り組んできました。当時はまだ一般的ではなかった大腸ESDに対し、先進医療として多施設共同研究に参加したことは良い経験となりました。また、外科医の経験を生かしながら、ESD適応外早期胃癌に対するLECS（腹腔鏡内

視鏡合同手術）による胃局所切除術の開発を行ってきました。潰瘍瘢痕のある粘膜内癌や、センチネルリンパ節転移のない粘膜下層浸潤癌に対し、内視鏡下に局所全層切除を行い、腹腔鏡で縫合を行う腹腔鏡内視鏡合同手術になります。GISTなど粘膜下腫瘍に対して一般的になってきたLECSですが、早期癌に対する適応に向け開発を続けています。

消化器内視鏡科では、消化管癌の診断および内視鏡の治療に重点をおいて診療を行っていますが、消化器疾患全般にわたり外来診療を行っています。胃潰瘍や逆流性食道炎など酸関連疾患、炎症性腸疾患、機能的消化管障害に対する内科的治療など診療内容は多岐にわたります。消化管出血に対する緊急対応も行っております。伊藤教授が病院長となり診療科長は交代しましたが、伊藤教授には引き続き外来診療、内視鏡検査・治療を継続していただいております。河北郡市医師会の先生方におかれましては、病診連携を介しこれまでどおりご紹介いただければ幸いです。

最後になりますが、寄稿の機会をいただき河北郡市医師会の皆様には感謝いたします。これからも質の高い医療を提供しつつ、地域に根ざした病院でありつづけるよう、少しでも役立てるよう努めていく所存です。河北郡市医師会の諸先生方のさらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新理事紹介

今年の出来事を忘れない

さとうクリニック 佐藤です。

内灘町で開業し12年目、医師会に加入し5年目を迎えました。

この度は河北郡市医師会理事に任命いただき誠に有難うございます。若輩者ではありますが、河北郡市を中心に地域医療に少しでも貢献できるよう努力する所存です。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い先生、ご家族の皆様は公私にわたりご苦勞を強いられていると思

さとうクリニック 佐藤 宏和

います。訪問診療を中心に仕事をしている私でも何かと苦勞が絶えません。先生方と比べれば比較にならない程リスクは低いとは思いますが、たくさんのご家庭や施設に伺うにあたり自分自身が広めてはならないとの思いから生活スタイルが一変しました。手洗い・マスクは当然のことながら、外食もしなくなり楽しみにしていたテニススクールも3月以降通わなくなりました。

当然のことながら学会も中止となり県外への旅行？

コロナ禍による変化

この度は、河北郡市医師会の理事を拝命いたしました、山崎圭介と申します。微力ながら河北郡市の医療に尽力させていただきます。

さて、去年はいろいろ変化の多い年でした。

我が家には4人の小学生がおりますが、新型コロナウイルスの影響で、小学校は新年度開始早々2か月間の休校となり、自宅学習の日々となりました。新1年生の双子は、かろうじて入学式はあったものの、友達と慣れる間もなくお休みとなり、ピカピカのランドセルと制服は出番がなく、不安を抱えた日々を過ごしておりました。自粛期間中は自宅周辺を散歩しても、人と会うこともほとんどありませんでした。

ただ、子供たちの生活の、IT化への対応の速さには驚きました。習い事はテレビ会議システムを用いたオンライン授業へ対応し、英会話、ピアノ等は、Zoom、Skype等を用いた自宅でのオンライン授業へ移行し、スポーツに関しても、YouTube配信となるなど、いろいろな変化がありました。それによりタブレットの購入、Wi-Fi環境の整備の必要にも迫られました。コロナ禍で学会のオンライン化も進み、専門医の維持のために休診し出張する必要がなくなり、リモートで単位の取得ができるようになり、メリットもありました。

自宅でZoom会議に参加すると、パソコンの後ろに子供たちが集まってきて、こちらの画像が映っていないか、冷や冷やさされることもありました。テレワークの環境を整える必要性も感じております。

それに比べて、医院でのIT化は遅々として進んで

山崎外科胃腸科医院 山崎 圭介

いない状態でした。そのような中、当院でも、レントゲンのフィルムレス、CRシステムの導入、電子カルテの導入など、遅ればせながら少しずつオンライン化を進めております。

一時期、マスク、ゴーグル、ガウンなどが入手困難となり、本当に大変でしたが、今は今後の感染症のさらなる流行拡大に備え、空気清浄機の設置、非接触式サーモカメラなどの備品を導入していき、院内でもコロナによる診療体制の変化に、全集中で対応していきたいと思います。



オンラインレッスンの様子



自粛期間中、散歩の途中でガラガラの電車に遭遇

も無くなったため、最近では家内と県内の観光地を巡る様になりました（紅葉狩りなど）。

残念なことにマラソン大会もすべて中止となってしまいました。折角減らした体重もみるみる増えこのままではまずいと思っていた中、各地でオンラインマラソンが始まり、片っ端からエントリーしました。8月の第1回東北・みやぎオンライン復興マラソン（フル）を始まりに9月には第2回東北・みやぎオンライン復興マラソン（フル）、リモート信州駒ヶ根チャリティーマラソン（ハーフ）、袋井クラウンメロンマラソンリモートチャレンジ（フル）、10月には第3回東北・みやぎオンライン復興マラソン（フル）、金沢マラソン2020ON-LINE（フル）、11月は越前大野リモートマラソン（ハーフ）とモチベーションを保つことができま

した。

文才の無い事を露呈してしまう内容ではありますが、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願い、新しい生活様式を身に付けて日々を過ごしていこうと思います。

これからも公私にわたりご指導賜りますようお願いいたします。



小松市の大イチョウで有名な大杉神社へ紅葉狩りに行った際に撮影したもの

事務局 最上由紀子

「北先生がまだ来てませ〜ん!」、いつもの光景で始まった10月25日、「つばたYou遊エンジョイミックス」テニス大会に参加しました。今回はミックスダブルスの個人戦ということで、久保先生はじめ、北先生とゆかいな仲間たちの4ペア8名が出場しました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため各種大会が中止されるなか、1年振りの試合ということもあり、日頃の練習の成果が発揮できる場となりました。成績の方は、各ペア・・・周りのレベルが高かったということにしておきます。

結果はさておき秋晴れの下、色づき始めた自然の中でのプレーは心地よくエンジョイすることができました。

運動不足を感じている皆様、一緒にテニスを楽しみませんか?私も初心者でしたが楽しく参加しています。是非一度、遊びに来てください。



サービスエースの予感

河北都市医師会の主な行事

(令和2年7月~令和2年の12月末まで)

1. 理事会・総会

令和2年 7月15日(水) 第4回理事会
 令和2年 8月19日(水) 第5回理事会
 令和2年 9月16日(水) 第6回理事会
 令和2年10月12日(月) 石川県医師会との懇談会

令和2年10月21日(水) 第7回理事会
 令和2年11月18日(水) 第8回理事会
 令和2年12月16日(水) 第9回理事会

2. 学術研修会

河北都市医師会学術講習会

令和2年10月14日(水)
 演題:「脂質異常症治療の新展開
 ~ω3系多価不飽和脂肪酸バランスの観点から~」
 講師:東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座
 主任教授 龍野 一郎 先生

令和2年11月11日(水)
 演題①:「糖尿病は何故よくならない?
 ~行動経済学で考えると~」
 講師:北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)保険管理センター
 センター長 教授 古川 健治 先生
 演題②:「エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物治療
 ~心血管アウトカムの試験の結果を踏まえて~」
 講師:公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院
 糖尿病内分泌センター長 住谷 哲 先生

令和2年11月13日(金)
 演題:「COVID-19共存下における2020/2021
 インフルエンザウイルス感染症対策」
 講師:廣津医院 院長 廣津 伸夫 先生

令和2年12月10日(木)
 演題:「肝臓領域の最新の話題~C型肝炎を中心に~」
 講師:金沢医科大学 肝胆膵内科学
 主任教授 土島 睦 先生

「救急医療週間」研修会

令和2年9月9日(水)
 演題:「石川県におけるCOVID-19との戦いを検証し
 今後に備える」
 講師:独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
 副院長 阪上 学 先生

新型コロナ対策講習会

令和2年8月21日(金)
 第1部 演題:「衛生管理について」
 講師:石川県済生会金沢病院
 感染管理認定看護師 浦嶋 ひとみ 先生
 第2部 演題:「自験例に学ぶ新型コロナ感染対策」
 講師:石川県済生会金沢病院
 感染対策室 方堂 祐治 先生

編集後記

昨年初めに拡大しはじめた新型コロナウイルス感染症が世界の日常を一変させる
 とは思いませんでした。これがまさに疫病なのでしょう。会員の皆様の
 尽力もあって、幸い、石川県での感染は抑えられているのが何よりです。更に、今
 年はワクチンが普及して感染がコントロールされていく事を祈るばかりです。

会誌編集委員

石倉 直敬 久保 隆之
 木嶋 保 藤井 亮太
 藤田 拓也 佐藤 宏和